

鳴山草平氏の著作の寄贈続く



都留市出身の小説家故鳴山草平氏の著書や未発表の遺稿などが、都留文科大学付属図書館に寄贈されています。

中津森に生まれ、昭和十年代から、亡くなられた昭和四十七年までの間に、「きんぴら先生青春記」などのユーモア小説や、「極楽剣法」などの剣豪もので全国の読者に親しまれていた鳴山草平氏の紹介や、その作品収集についての都留文科大学付属図書館の取り組みを、先に広報「つる」紙上でお知らせしました。

その後、読売新聞も記事に取りあげ、四月に入って、市民や、鳴山氏の遺族の方々からも、貴重な著書や遺稿の寄贈を受けることとなりました。

市内上谷の杉本一三さんからは、「狼煙」「筑紫の錦旗」他の著作が寄贈されました。ちなみに杉本さんは鳴山氏の従兄に

あたる方で、幼少の頃鳴山氏と一緒に遊んだ思い出なども親しく話していただきました。

また、市制祭の四月二十九日には遺族の前田文吾さん、前田高昭さん、斉藤倬子さん、杉井美穂さんが、菩提寺用津院に墓参に訪れた際、中津森の佐藤育三さん（鳴山草平氏の親戚）の案内で、都留文科大学にお寄りいただき、二十点を超える著作や、未発表の遺稿などの御寄贈御寄託をいただきました。

この席には、都倉市長、白尾学長はじめ関係者も出席し、遺族がそれぞれに、なつかしい思い出をこめて語ってくれた家庭での鳴山草平氏の姿をつぶさに伺うことができました。

国文学研究の関口安義教授の研究室では、本格的な鳴山草平研究もスタートしました。図書館では鳴山作品の一層の収集を続け、これらの作品の完全な保管を図り、皆さんの閲覧に役立てたいと思っています。

鳴山草平氏の作品は、百点にも及ぶといわれています。作品収集はやっとその緒についたばかりです。今後とも、市民の皆さんのご理解とご協力をいただきたいと思っています。

都留文科大学付属図書館

『お茶壺道中の碑』が完成

ふるさと会館入口前に童歌「ずいずいずいころばし」の歌が刻まれた『お茶壺道中の碑』が建立され、四月二十九日、除幕式が行われました。

江戸時代に將軍家ご用達の宇治茶を江戸城に運んだ行列をお茶壺道中といいます。茶壺は勝山城跡にあったとされる茶壺蔵で夏を越したといわれています。

ふるさと会館にお越しの際には、是非ご覧ください。

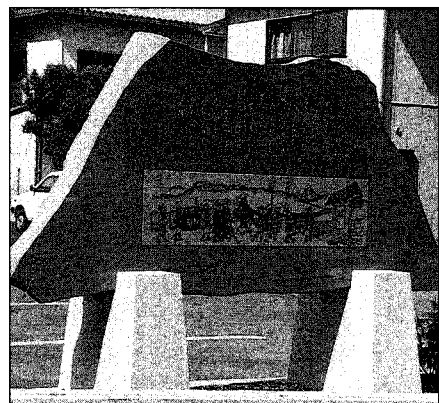
大学図書館が電算化されました

四月二十二日、都留文科大学付属図書館で、図書館業務電算化に伴い、運用開始式が行われました。

関係者約四十名の出席のもと、白尾学長が図書館カウンターのコンプューターの起動スイッチを押し、運用が開始されました。

これにより、図書の貸出・返却業務および蔵書の検索が従来よりスピードアップされるようになりました。

さらに、都留文科大学の蔵書管理だけでなく、全国の国公立大学図書館をコンピューターで結ぶ「学術情報システム」のネットワークへの加盟により、他大学図書館研究機関などの蔵書の検索も可能となり、図書館の機能が充実しました。



した。

また、図書館規程を改正し、市民の皆さんにも大学図書館を利用していただけるようになりましたので、お気軽にお出かけください。

都留文科大学付属図書館

☎(43)4311 内線601